

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人総合研究大学院大学

1 全体評価

総合研究大学院大学は、大学共同利用機関法人等に設置されている各分野で我が国を代表する研究所その他の機関が有する優れた研究環境を活用した博士課程教育を実施し、高い専門性と広い視野並びに国際的通用性を兼備して、新しい課題を発掘して解決できる独創的な研究者を育成することを目指している。第3期中期目標期間においては、異分野融合的な新しい学術分野の創出を試みるとともに、各専攻が提供する専門教育を基本としつつ、総合教養教育及び専門基礎教育の整備やカスタムメイド教育プログラムの提供等により、新しい科学と文化を創造し、時代と社会の要請に応える研究を担うことのできる人材を育成すること等を基本的な目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、大学共同利用機関法人等との関係強化を図っているほか、海外大学と新たに部局間協定を締結するなど国際的な学術交流を促進しており、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特筆	一定の 注目事項	順調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 大学共同利用機関法人等との関係強化

大学共同利用機関法人等との関係強化に向けた取組として、大学共同利用機関法人等の理事等5名を構成員とした、大学の活動に関する必要な助言等を目的とするアドバイザーボードを設置している。アドバイザーボードにおいては、大学の機能強化の進め方、教員の学生指導に関する研修体制やノウハウの体系化の必要性、ディプロマポリシーと学生のキャリア展開等について議論を行っており、その意見は運営会議においても報告され、大学運営の改善に向けての活用を図っている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 国際的な学術交流の促進

学術交流協定の締結、ダブルディグリー制度の構築等、共同教育プログラムの開発や、将来の学生交流を視野に入れた国際的な学術交流の促進等を目的とする「国際連携推進事業」によって、各研究科・専攻の取組を支援している。支援の結果、先導科学研究科はベトナム国立自然科学大学生物学部、ベトナム国立農業大学動物科学学部、ベトナム社会科学院考古学研究所と、学融合推進センターはシンガポール国立大学インタラクティブ電子メディア研究所と、新たに部局間協定を締結している。